

基本方針2 子どものスポーツ機会の充実と体力の向上

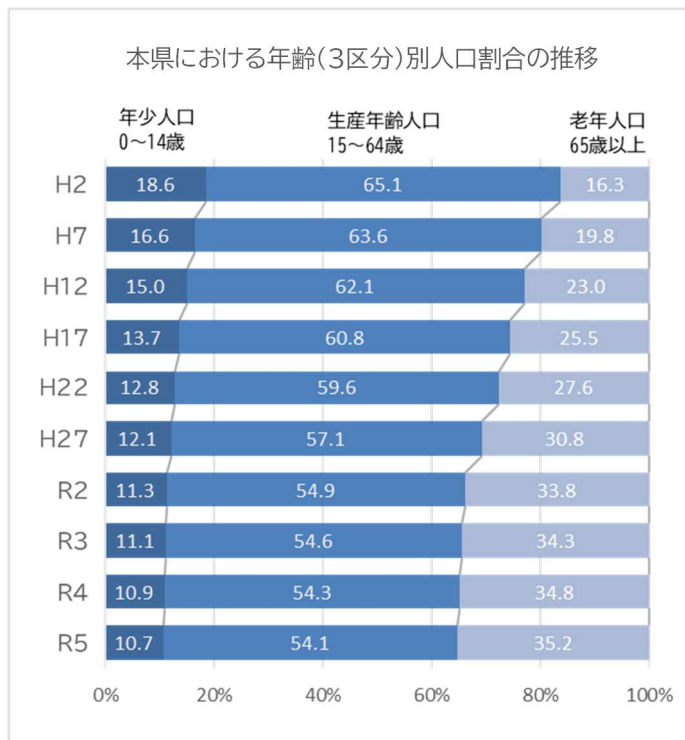
子どもの心身の健全な発達や、生涯にわたってスポーツに親しむ意識の醸成等に向けて、多様な主体が連携することで、子どものスポーツ機会の充実と体力の向上を図ります。

<施策展開の方向>

(1) 多様な主体が連携した子どものスポーツ機会の充実

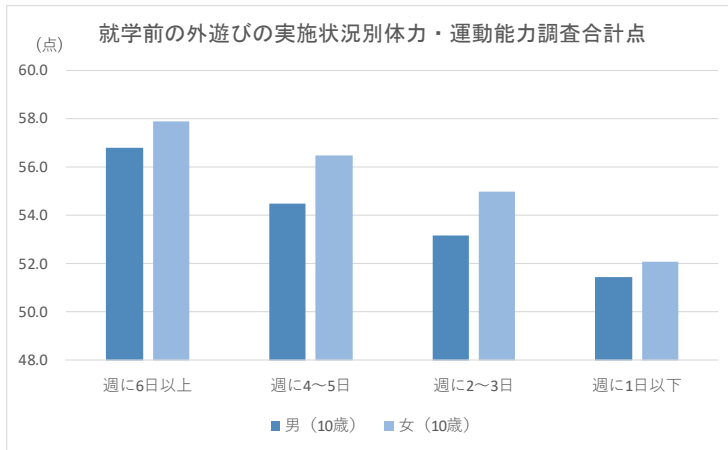
【現状と課題】

- 少子化の進行により、スポーツや遊びの仲間となる子どもの数が減少するとともに、交通手段の発達や情報化の急速な進展など生活様式の変化に伴い、子どもが日常的に歩いたり、体を動かして遊んだりするなどの機会が減少している傾向にあります。



出典：
令和5年「山形県の人口と世帯数」

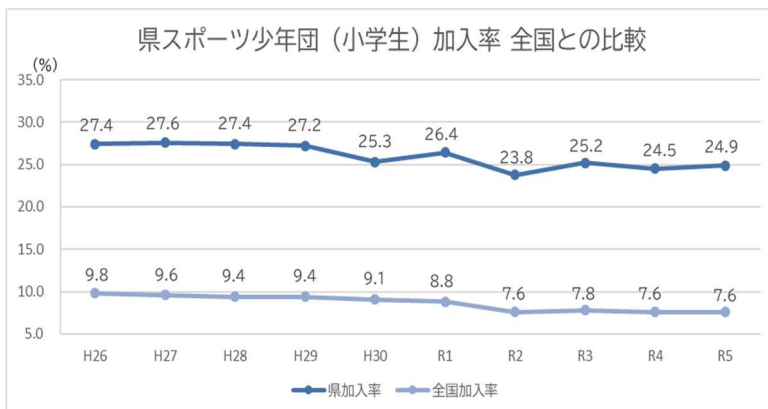
- 子どもの運動習慣の形成は、生涯にわたってスポーツを楽しむための基礎的な体力や運動能力を育む上で重要です。生涯にわたりスポーツに親しむためには、家庭や学校、地域等の連携による幼児期からの積極的な取り組みが必要です。



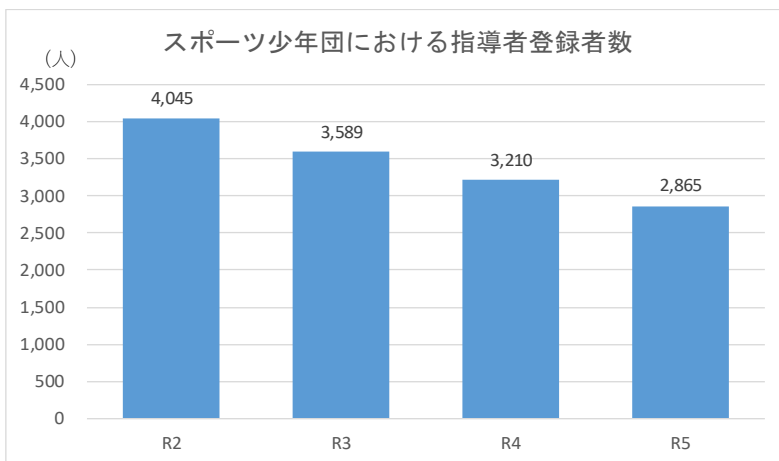
出典：
令和5年度「体力・運動能力調査」

○ 本県は、小学生のスポーツ少年団の加入率（令和5年度：24.9%（全国加入率7.6%））が全国と比較しても高い状況にあり、小学生を中心とした特徴あるスポーツ環境を維持しています。

一方、地域における子どもたちのスポーツ活動の場となるスポーツ少年団や総合型クラブ等では、スポーツ指導者が減少しており、多様化するニーズに対応した指導者の育成が必要です。



出典：
県観光文化スポーツ部調べ



出典：
県観光文化スポーツ部調べ

- 少子化や部活動改革の推進など、子どもを取り巻くスポーツ環境が変化する中、子どもの豊かなスポーツ活動の実現に向け、学校と地域等との連携・協働により、持続可能なスポーツ環境を整備する必要があります。

<施策>

① 幼児期から子どもが楽しく運動する取組みの推進

- ア 幼児が、生活の中で自発的に楽しみながら体を動かして遊ぶ機会が確保できるよう、スポーツ団体等と連携し、「幼児期運動指針¹¹」や「アクティブ・チャイルド・プログラム¹²」の普及・活用に努めます。
- イ 家庭や幼稚園、保育所等における子どもの身体活動の推進のため、保護者や保育者等に対し、幼少期におけるふれあい遊びや身体活動の重要性の意識付けを図ります。
- ウ プロスポーツチーム等と連携し、子どもが体を動かす楽しさや喜び、体づくりの大切さを知る機会を創出します。

[主な取組みの例]

- 保育所、幼稚園などへの幼児期運動指針等の周知
- 市町村が実施する「幼児共育ふれあい広場」への支援
- プロスポーツチーム等と連携した体を動かす楽しさを体感する機会の提供



学校等におけるプロスポーツ選手との交流

- プロスポーツチーム等と連携した食育活動を通した体づくりの大切さを学ぶ機会の提供

¹¹ 文部科学省が設置した「幼児期運動指針策定委員会」において、平成24年3月に策定した幼児(3歳から6歳の小学校就学前の子ども)期における運動の在り方についての指針。

¹² 公益財団法人日本スポーツ協会が開発した、子どもが楽しみながら積極的に体を動かすことができる運動プログラム。

② 地域や関係団体等と連携した子どものスポーツ機会の充実

- ア 子どものスポーツ活動が効果的・効率的に行われるよう、総合型クラブ、スポーツ少年団、学校、学校体育団体、競技団体、障がい者スポーツ団体等が各団体に関する情報を共有する機会を設けます。
- イ スポーツに親しむ子どもの輪の拡大を図るとともに、スポーツ少年団相互の友好と交流を促進する取組みを実施します。
- ウ 総合型クラブやスポーツ少年団等と連携し、放課後子ども教室での多様な運動を体験する機会の提供や保護者への啓発活動を促進するとともに、地域の様々なスポーツ活動を通して子どもの運動経験の充実に努めます。
- エ スポーツへ苦手意識を持つ児童生徒や、運動部活動へ積極的に関わらない生徒が、放課後子ども教室や放課後児童クラブ、総合型クラブ等においてスポーツに親しむことができる場や機会を増やす取組みを支援します。
- オ 地域における子どものスポーツ機会を充実させるため、総合型クラブやスポーツ少年団の活動を支援します。
- カ 部活動改革を踏まえた地域スポーツの推進体制を整備するとともに、地域クラブ活動における新たな価値¹³の創出に向け支援します。

[主な取組みの例]

- 関係者が連携・協働の促進を協議する県広域スポーツセンター企画運営委員会や各地区広域スポーツセンター運営委員会等の開催（再掲）

山形県広域スポーツセンター
Yamagata Wide Area Sports Center

山形県スポーツ情報ネットワーク

スポーツ指導者人材バンク
リーダーバンクやまがた

部活動改革関連情報
熱中症予防関連情報
新型コロナウイルス
総合型クラブ関連情報
山形県スポーツ推進計画
各市町村スポーツ推進計画
広域スポーツセンター
運営計画
山形県スポーツフェスティバル
協議スポーツ・レクリエーション
山形県体力・運動能力調査報告
スポーツ大会等に対する後援
名義使用承認申請について
山形県体育館

山形県広域スポーツセンターのWebサイトには、県内のスポーツ関連イベント情報等が満載

¹³ 新たな価値の例としては、子ども達のニーズに応じた多種多様な体験(マルチスポーツやスポーツと文化芸術との融合を含む)、子ども達の個性・得意分野等の尊重、学校を越えた仲間の獲得、様々な世代との豊かな交流、専門的指導者による高度な指導、学校段階にとらわれない継続的な指導などが挙げられます。

- 県スポーツ少年団との共催による「県少年少女スポーツ交流大会」の実施



県少年少女スポーツ交流大会（レスリング競技）

- 発達段階に応じて基礎的な動作を獲得できる「アクティブ・チャイルド・プログラム」等の運動遊びプログラムを活用した幼児や就学児を対象とした総合型クラブの教室化の支援
- 総合型クラブと放課後子ども教室との連携・協働の促進
- 放課後子ども教室等の指導者を対象とした研修会における事例の提供や実技指導
- クラブアドバイザー¹⁴等による総合型クラブとスポーツ少年団の育成・支援
- 山形県部活動改革推進協議会の開催
- 市町村における部活動の地域展開に向けた取組みを支援する県アドバイザーの配置
- 民間支援組織との連携による、市町村や地域クラブ等における地域スポーツの基盤整備に向けた取組みへの支援
- 部活動改革を踏まえた地域におけるスポーツの在り方等に関する県民の意識醸成に向けたシンポジウム等の開催

¹⁴ クラブアドバイザーは、総合型クラブが地域スポーツの担い手として重要な役割を果たしていけるよう、クラブの創設から自立・活動までを一体的にアドバイスする役割を担っています。

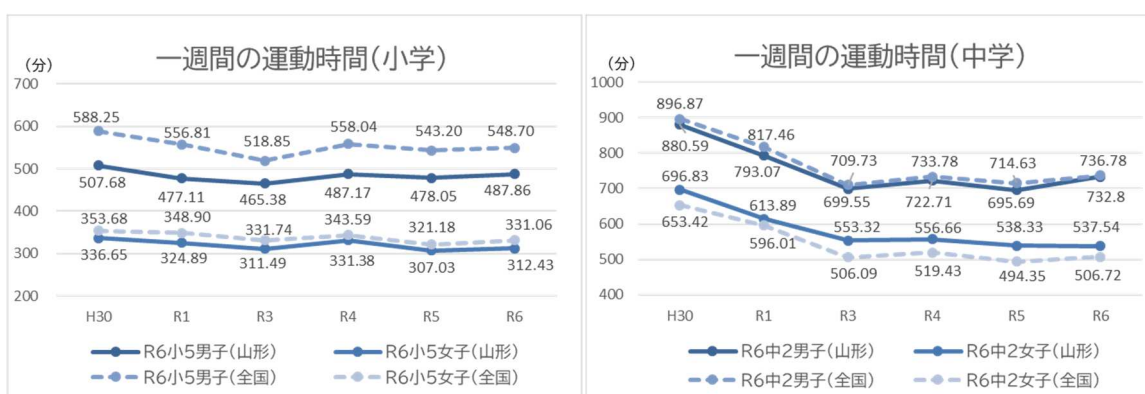
<施策展開の方向>

(2) 学校におけるスポーツ活動の充実

【現状と課題】

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査¹⁵によると、本県の1週間の総運動時間は中2女子を除き全国平均を下回っていますが、新型コロナの影響による減少に歯止めがかかりつつあります。一方、本県の児童・生徒の「運動やスポーツをすることが(好き・やや好き)」の割合などは概ね全国平均を上回っています。

一週間の運動時間(体育の授業時間を除く)



子どもの運動やスポーツに関する意識

質問内容	小学校5年生				中学校2年生			
	男子		女子		男子		女子	
	県	全国	県	全国	県	全国	県	全国
運動やスポーツをすること(好き・やや好き)	94.4%	93.3%	86.9%	86.2%	93.0%	90.3%	77.8%	76.8%
あなたにとって運動やスポーツ(大切・やや大切)	94.7%	93.8%	90.4%	90.4%	94.5%	92.5%	86.5%	85.2%
中学校で授業以外に自主的に運動したい(思う・やや思う)	90.8%	89.4%	86.1%	84.3%				
中学卒業後自主的に運動したい(思う・やや思う)					89.5%	87.6%	78.4%	76.2%

出典：令和6年度「体力・運動能力、運動習慣等調査報告書」

- 学校における体育授業は、生涯にわたるスポーツライフを実現するための基礎となるものです。子どもの頃の運動習慣が大人になってからの運動習慣・運動能力に影響する傾向があることから、生涯にわたって日常的にスポーツに親しむことができるようにするため、授業の工夫・改善や体力向上に係る取組みにより、「運動の楽しさ」の実感を通して、「運動が好き」という子どもを増やすことが重要です。

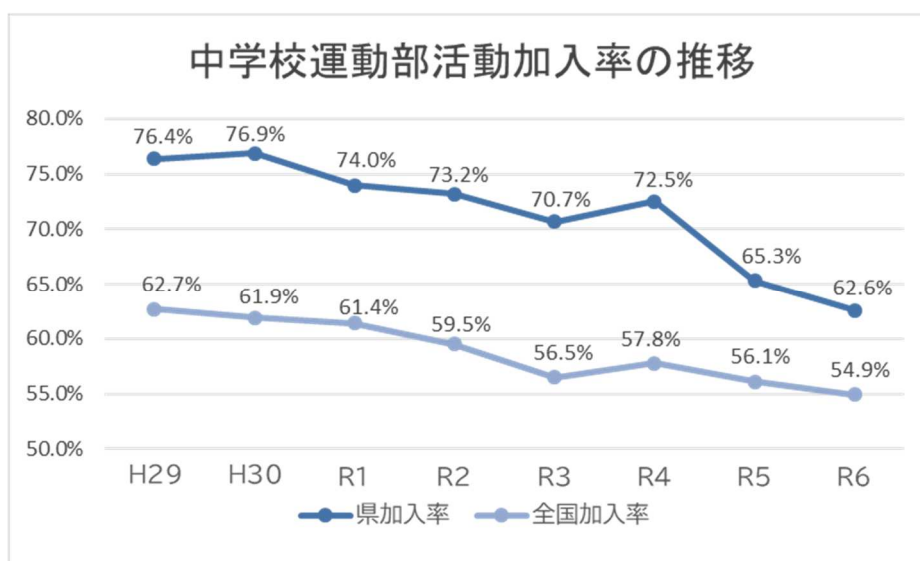
¹⁵ 国や教育委員会が、子どもの体力・運動能力の向上に係る施策等の成果と課題を検証し、その改善を図ることや、学校が体育・保健体育の授業等の充実・改善に役立てる取組みを通じて、子どもの体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的に実施する調査。

- 令和5年11月に第62回全国学校体育研究大会山形大会が開催され、生涯にわたり多様な形でスポーツに関わることができる子どもを育てるという考え方のもと研究実践が進められました。その成果として、日頃から児童生徒に、スポーツをすることの大切さを伝えるとともに、運動の楽しさを実感し、工夫しながら運動する習慣の定着につなげる授業改善が進められています。

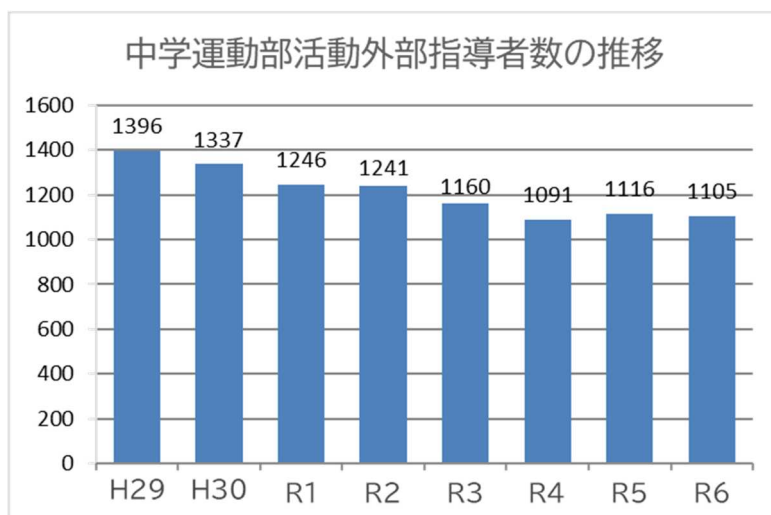


第62回全国学校体育研究大会山形大会
大会主題：生涯にわたる豊かなスポーツ
ライフの実現に向けて

- 学校における部活動については、少子化の進行により、従前と同様の体制で運営することは難しくなっています。そのような中、生徒の多様なニーズや志向を踏まえた生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境の構築を目指し、中学校における休日部活動の地域展開が進んでいます。単独での地域展開が困難な市町村においては、広域的な連携が必要となっており、また、地域展開を推進するにあたり、地域クラブ等における指導者の確保と将来にわたって持続可能な運営のための方策が求められています。



出典：全国中体連及び県中体連調査



出典：
県教育委員会調べ

<施策>

① 体育・保健体育授業の充実

ア 学習指導要領の内容を踏まえ、生涯にわたりスポーツに親しみ、スポーツとの多様な関わり方ができる資質・能力を育成するため体育授業の充実を図ります。

イ 子どもが運動する楽しさを実感し、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ態度の育成を図るため、アクティブ・チャイルド・プログラム指導者や大学教員などの専門家による研修会を通して、教員の資質向上を図ります。

ウ 誰もが楽しい体育授業の実践に向け、地域のスポーツ指導員を活用し、体育授業の充実と教員の指導力向上を図ります。

エ 体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえ、児童・生徒の体力の現状を把握するとともに、体力向上の取組み等について、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校への情報発信を行います。

[主な取組みの例]

- 体育授業の改善を図るため、体力向上等に関する取組みや授業の好事例が共有できるデータベースの活用
- 安全かつ円滑な授業の実施や子どもの体力向上に資する指導に関する各種実技研修会の開催
- 「楽しい体育授業づくり研修会」の開催
- 授業の充実を図るため、体育授業の指導を補完する地域スポーツ指導者の学校への派遣

- 体力向上対策会議における、体力・運動能力、運動習慣等に関する課題の共有と体育授業の充実に向けた各学校に応じた取組みの検討



小学校における体育授業

② 地域や関係団体等と連携した部活動等の充実

- ア 「山形県における運動部活動の在り方に関する方針」を踏まえた、適切かつ学校と地域が連携した運動部活動を推進します。
- イ 地域クラブ活動における新たな価値の創出に向け、市町村における部活動改革を踏まえた地域スポーツの推進体制の整備を支援します。
- ウ 教員の代わりとなり部活動の指導や大会等への引率を単独で行うことが可能な部活動指導員の配置を進め、部活動指導体制の充実を図ります。
- エ 新たな部活動指導員及び地域指導者の確保に向け、「リーダーバンクやまがた」の活用促進を図ります。
- オ 運動部活動顧問における学校指導者の資質向上を図る研修会を実施します。

【主な取組みの例】

- 国が策定したガイドラインを踏まえた部活動改革が円滑に進むよう、市町村教育委員会や関係団体等との連携・支援
- 部活動及び地域クラブ活動の在り方に関する検討の推進
- 山形県部活動改革推進協議会の開催（再掲）
- 市町村における部活動の地域展開に向けた取組みを支援する県アドバイザーの配置（再掲）
- 民間支援組織との連携による、市町村や地域クラブ等における地域スポーツの基盤整備に向けた取組みへの支援（再掲）
- 部活動改革を踏まえた地域におけるスポーツの在り方等に関する県民の意識醸成に向けたシンポジウム等の開催（再掲）

➤ 部活動指導員の学校への配置・活用



部活動指導員による運動部活動指導

- 「リーダーバンクやまがた」の周知・活用促進
- 「いじめ防止・体罰根絶に向けた運動部活動運営統括責任者研修会」の開催

「部活動地域展開に向けた取組み～NPO法人さけがわ友遊クラブ～」

「生徒にとって望ましいスポーツ環境の構築」と「教育の働き方改革の推進」の両立を目指す部活動改革の一貫として部活動の地域展開が本県においても進められています。

鮭川村では、鮭川中学校の運動部活動(野球、バレーボール、バドミントン)がない日は、総合型クラブであるNPO法人さけがわ友遊クラブがクラブ活動を実施しています。外部の指導者をクラブのコーチとして任命し、生徒・顧問・保護者が安心して活動できるよう地域展開を行っています。今後は文化部(吹奏楽)も地域展開できるよう新たなしくみづくりが進められています。

